

あいあいきっず

— 病児保育 —



令和5年2月号

梅のつぼみが膨らみ始め、春の兆しを感じる頃となりました。暦の上では春を迎えてますが、まだまだ朝晩の冷え込みに背中が丸まってしまいます。

さて今年度も残り2ヶ月を過ぎました。本県での新型コロナ感染症の新規感染者は減少傾向にあります。政府より5類相当の引き下げが示され、春には大きな動きがある事が伝えられています。これまでの with コロナの生活に慣れた私としては多少の不安はありますが、新たな明るい未来に進むことを願います。また子ども達の発達や成長の環境がさらに拡充され、子育て世代の皆さんのが、もっと楽に子育ての出来るアフターコロナになって欲しいと思います。来期が楽しみですね(^o^)/~

アレルギー性鼻炎

体がある物質を異物と認めると、それから身を守るため抗体が作られます。再び鼻から異物が入ってくると、粘膜内の抗体がアレルギー反応を起こし、くしゃみ・鼻水・鼻閉が発現します。抗原になりやすい原因物質は、ホコリ、ダニ、スギ等の花粉、犬や猫等のペットです。

治療方法 ○原因物質の排除が原則

○内服薬や点鼻薬等で症状をコントロールする

○免疫療法 抗原のエキスを内服しながら体を慣らす治療

尚、今シーズンの県内は去年の約 1.4 倍のスギ花粉飛散量が予想されています

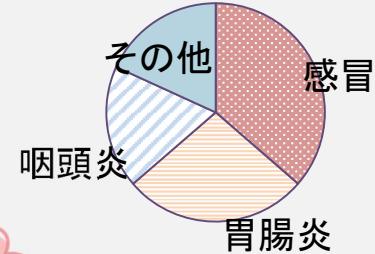
鹿児島県感染症情報

2023年	(報告週)	第4週		
定点種別	定点報告疾患	報告数	定点当り	累積報告数 (2023年)
インフルエンザ定点 (内科・小児科定点)	インフルエンザ	762	8.28	3,503
	○咽頭結膜熱	22	0.41	66
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.13	40
	感染性胃腸炎	423	7.83	1,324
	水痘	1	0.02	17
	○手足口病	30	0.56	79
	○伝染性紅斑	2	0.04	5
	突発性発しん	12	0.22	55
	ヘルパンギーナ	6	0.11	31
	流行性耳下腺炎	1	0.02	8
小児科定点	○RSウイルス感染症	40	0.74	106
	急性出血性結膜炎	-	-	-
	流行性角結膜炎	2	0.29	6
眼科定点	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	-	-	-
	無菌性髄膜炎	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	0.00	-
	報告数合計	1,308	0	5,240

○印は前週比増



1月利用児病名割合



予約受付時間7:30~20:00 (月~土)

(日曜・祝日を除く)

病児病後児保育あいあいきっず

TEL 26-0404

不明点等、ご連絡下さい(^-^)

